

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践年度	平成29年度
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 ■その他( 寄宿舎における生活教育 )
	単元・題材名	お月見会! 係対抗 寄宿舎カップ争奪 月見バーガーコンテスト ~ネットスーパーで食材を購入してみよう~
	授業の目標	①グループで話し合い、月見バーガーに必要な食材をリストアップする。 ②予算内に購入できるかみんなで検討し決定する。 ③ネットスーパーのサイトを開き、実際に注文する。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	■「知識及び技能」 ■「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」 <input type="checkbox"/> その他( )
	自立活動の要素	<input type="checkbox"/> 健康の保持 <input type="checkbox"/> 心理的な安定 ■人間関係の形成 <input type="checkbox"/> 環境の把握 <input type="checkbox"/> 身体の動き ■コミュニケーション
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 ■特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 ■中学生 ■高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない 寄宿舎入舎生対象(中2~高3) 13名
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 ■聴覚障害 ■知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
子どもの実態	子どもの課題 (特性・ニーズ)	■聞く <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 見る ■話す <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 ■計算する <input type="checkbox"/> 推論する ■日常生活活動 ■社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性一衝動性 <input type="checkbox"/> 覚える・理解する ■時間的・空間的・人的交流の制約 <input type="checkbox"/> その他 *聴覚障害のある生徒が在籍。普聴は、補聴器や人工内耳等を装着し生活している。コミュニケーション手段は様々で、相手や場面に応じて手話や口話、筆談を使用し意思疎通を図っている。聴覚障害の大きな課題にコミュニケーション能力の向上が挙げられる。伝え方やとらえ方行き違いが生じるケースが多く、度々生徒間同士のトラブルとなることが多い。生徒個々の卒業後のライフプランをイメージしたとき、消費活動が生活していく上で必要不可欠となる。そこで、消費活動や金銭教育の一環として情報機器を活用しネットスーパーの存在を知り、実際に活用する取り組みを行った。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	①PC ②スマホアプリ(クックパット、DELISH KITCHEN、クラシルなど) ③インターネット(イオンネットスーパー サイト)
	活用のねらい	A コミュニケーション支援( <input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 ■A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(■B1情報入手支援 ■B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C 学習支援( <input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 ■C3社会生活支援)  ・情報通信機器の利便性を上手に活用する。
	活用方法	①PC、スマホを活用し、必要な情報(食材や作り方)をインターネットで検索する。 ②ネットスーパーのサイトで実際に買い物し注文する。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	コンテスト方式(見た目、味、栄養バランス)で行事を設定することで、勝負事の要素が加味され団結力が強まり、グループ内で積極的にコミュニケーションを取り合う場面がたくさんみられた。「美味しい月見バーガーをみんなで協力して作り、優勝しよう!」と目標に向かい生徒同士でアイデアを出したり、主体的に情報機器(PC、スマホ)を活用し、食材や調理方法等、行事に参加する姿勢に成長を感じた。また、今回初めてネットスーパーを活用してみたが、家にいながら買い物ができる利便性を実感できたことは、有意義であった。今後も活用してみたいとの声も聞かれ、消費活動や金銭感覚を身につける一つのツールとして活用していきたい。
資料	図・写真・表等はこちらへ貼り付けてください。 (生徒の写真は特定できないよう加工して下さい。)	   